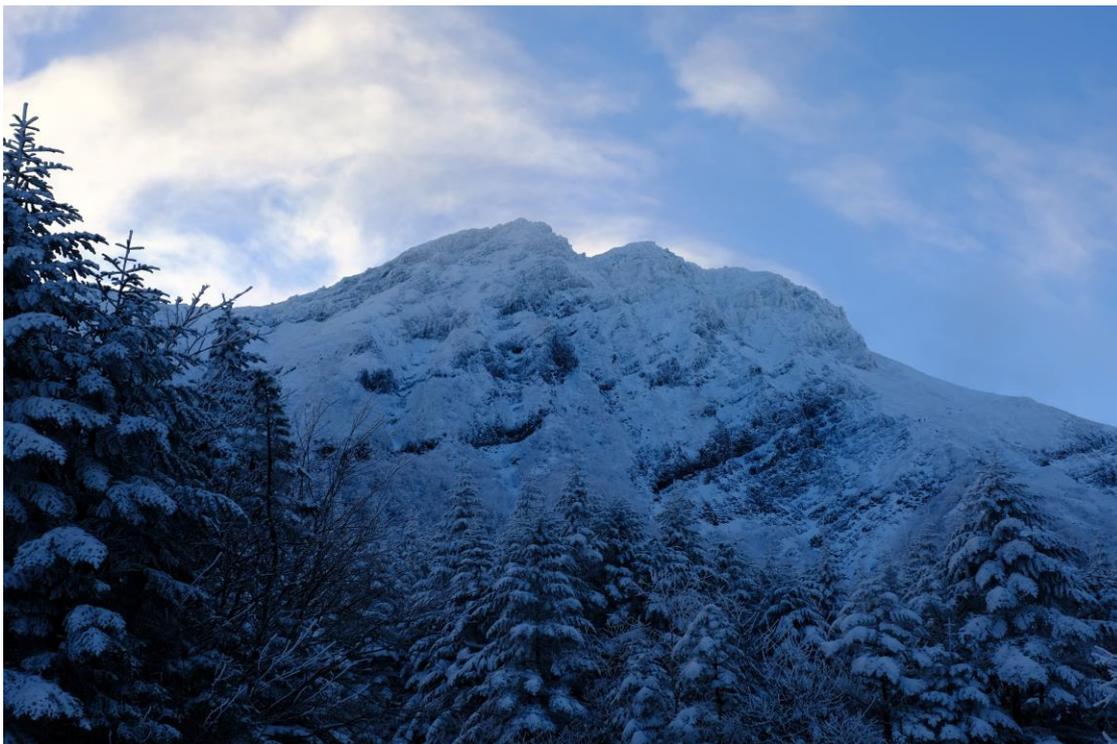


## デンソー山岳部 2018 年度 冬山合宿報告書

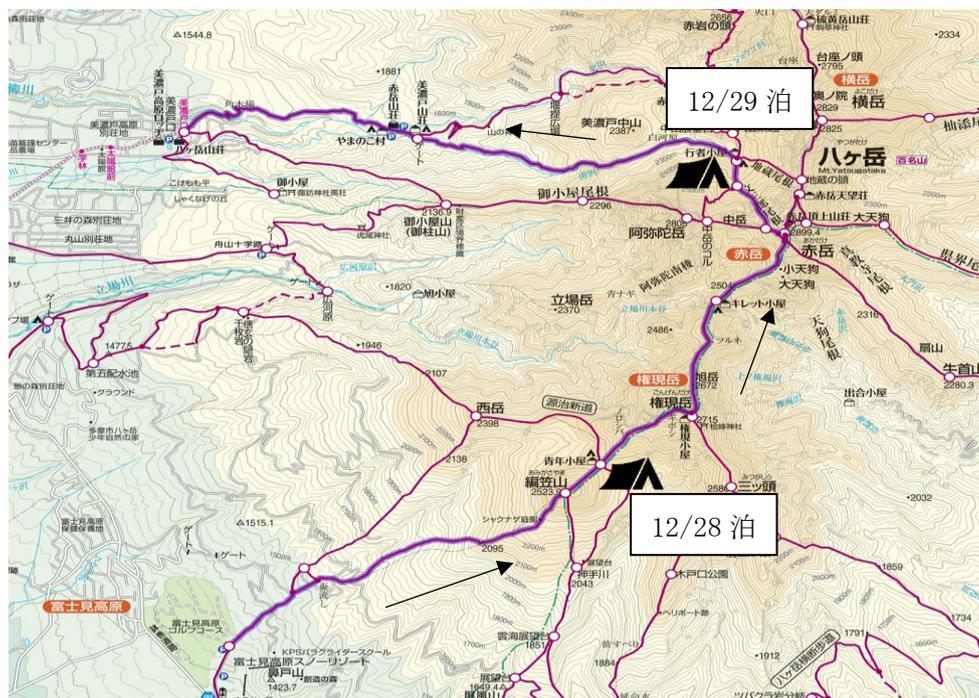
◇ 山域 南八ヶ岳 権現岳～赤岳

◇ 日程 平成 30 年 12 月 28 日～12 月 30 日

◇ メンバー 舘谷昌弥(CL、会計、記録)  
鈴木芳則(SL、装備、車)  
福岡道成(食料)



主峰・赤岳



<第 1 日> 12/28(金) 曇り 【福岡 記】

【行動記録】 行動=4H30M (休憩含む)

富士見高原リゾート駐車場 (06:30) →五叉路分岐 (07:00) →不動清水 (07:10) →盃流し (07:20) →白久保岩小屋 (08:00) →編笠山 (10:45) →青年小屋 (11:00、泊)

6:00 空が白み始める中、富士見高原リゾート駐車場に到着。「富士見」の名の通り、富士山のシルエットに迎えられ、今回の山行の安全を願う。天候は予報によれば大寒波の影響で雪風が懸念されるが、いまはまだ穏やかで気温もそれほど低くないと感じる。

6:30 共同装備のパッキングなどの準備を終え、山行を開始する。平地では全く雪が積もっていないため、ワカンは不要と判断し車に残した。途中の不動清水にて水を 4L 確保。3 人ともそれぞれの装備はゆうに 20kg を超えた。

9:00 標高 2000m を超えたあたりから登山道が凍り始める。館谷 CL 判断のもと、アイゼン装着。気温もおそらく氷点下 5~10℃程度で、ダイヤモンドダストのように空気中に氷が舞い、木々の合間から差し込む光と溶け合っただけで幻想的な風景となった。

10:30 森林限界を超え、編笠山の山頂直下の岩場を登る。遮るものがなくなり、風が強まるが、まだ風速は最大でも 10m/s 程度と推測。ルートも、岩がほとんど見えており、それほど悪くはない。しかし、重い荷物を背負っての登攀はなかなか速度が上がらない。

10:45 編笠山を登頂。一面に雲が広がり、展望はない。風が強く、早々に先に進む。編笠山から青年小屋までのルートは、編笠山までのルートよりも雪が多かったが、最大でも足首が埋まる程度。トレースもわずかに残っており、ルートを外す心配はなかった。

11:00 本日の幕営地である青年小屋に到着。明日のルートである権現岳が見えるはずだが、頂上は雲の中に覆われている。青年小屋の周囲は風が当たりにくい場所らしく、穏やかであった。これから天候が崩れるとの予報だが、好転してくれることを願う。



雲が赤く染まる



夕食、寒いのでシュラフに入りながら

青年小屋では、冬季避難小屋をお借りした。避難小屋は、10 畳以上ある畳の部屋で広々としており、ゆったり足を伸ばすことができた。しかし、広い反面、火を炊いても部屋が温まらず、シュラフに包まるなど各々が暖をとる。余りにも寒いので、福岡の時計に付いている温度計にて気温計測を試みるも、計測不能。CASIO のプロトレックは、氷点下 10℃が計測下限値であることが判明。夕食まで仮眠。

16:30 夕食。本日はモツ鍋。下見山行では LAWSON の冷凍ホルモン鍋 (通称ローホル) を使用したが、今回は良いホルモンをスーパー

で購入。しかし、極寒の環境でホルモンが凍ってしまい、袋が破裂していた。袋を二重にしていたため事なきを得たが、出来上がりのホルモンが暗い色になってしまった。

19:00 風が強まる音を聞きつつ、就寝。

<第 2 日> 12/29 (土) 曇り時々雪 【鈴木 記】

【行動記録】 行動時間: 7H27M

青年小屋発(06:14)→権現小屋(08:00)→権現岳(8:15)→旭岳(08:55)→キレット小屋(10:15)→竜頭峠(12:35)→文三郎尾根分岐(12:56)→阿弥陀岳分岐(13:31)→行者小屋(13:35)

5:00 起床。避難小屋の室内気温が非常に低く、寒さでよく眠れなかった。風で小屋がギシギシ音を立てていたので外は強風じゃないかと思いながら起きた。朝食は、ランチパックを準備していたが全て凍りついていてそれしかないのがガリガリと具材を噛み砕いて食した。

天気予報では-18℃ 20mを超える強風ということで気を引締めて出発。樹林帯では風は穏やかだったであったが、森林限界を超えると強風しかも非常に気温が低く顔が痛い。

8:00 権現小屋の休憩で私は風の冷たさに耐えられずゴーグルを装着、このタイミングで装着して今思えば非常に良かった。権現岳へは分岐点にザックをデポし館谷、福岡はアタック、鈴木はかなり疲労していたため分岐で待機した。



権現への登り、危険なトラバース



後半は晴れ間も

所々に現れる急峻な登りでは、岩と雪のミックス状態でかなり手こずる。私が手こずっていると館谷リーダーが先行してルートをつくってくれた。

また、深雪部で足を取られてもたつくと福岡君が先行しトレースを作ってくれた。

稜線部では、突風により体がふらつき重い荷物を支えるのに必死だった、冬の縦走の大変さを感じた。

15:50 文三郎尾根分岐点で、天候悪化とメンバーの疲労度を考え、赤岳登頂を断念し、文三郎尾根へ下山とリーダーより指示。

文三郎尾根は、雪が踏み固まっており、アイゼンがよく効き気持ちよく下山できた。行者小屋にてテント幕営休憩後、白湯鍋を囲んで楽しいひと時を過ごし 就寝

<第 3 日> 12/30 (日) 晴れ 【館谷 記】

【行動記録】 行動時間: 1H52M

行者小屋発(7:36)→美濃戸山荘(8:42)→美濃戸口(9:28)

6:00 起床。今日は下山のみということもあり、昨日のような緊張感はない。のんびりと起床し、カうどんを食べ、撤収にかかる。行者小屋は山の西側にあるためモルゲンロータは見られないのが常だが、今日は稜線に薄くかかるガスが赤く染まっていた。しばし見惚れる。

7:30 ごろ行者小屋を出発。北沢ほどではないが、南沢も凍結箇所が所々にある。3人ともチェーンアイゼンを装着し、軽快に駆け下りていく。



モルゲンロータ

美濃戸山荘でタクシーを手配し、9:30 ごろ美濃戸口に下山。健闘を称えあう。  
10 分ほど待ちタクシーに乗り込む。運転手のマシンガントークのおかげか、あっという間に富士見高原に到着。温泉に寄り、帰路についた。

### 【食糧 福岡】

第 1 日：夕 モツ鍋 (プチッと鍋、カット野菜、ホルモン)、メのラーメン (マルちゃん正麺)

第 2 日：朝 各自

第 2 日：夕 白湯鍋 (プチッと鍋、カット野菜、鶏肉)、メのうどん

第 3 日：朝 カップで食べるどん兵衛+カット餅 (ピザ用)

- ・寒い中でもすぐに調理できるよう、1 食ごとに袋分けした
- ・一日目は水確保の懸念があったため、キャベツから十分水分が取れるモツ鍋とした
- ・餅はすぐに熱が通るように、小さくカットされたピザ用を採用した

不破さん、牛しぐれの差し入れありがとうございました。

### 【装備 鈴木】

ガス缶は、L を新品と使いかけ 2 本準備したが、新品 1 本のみ携帯した。特に問題なかった。  
テントは、エスペース E を準備、内張りも準備したが取り付け取り外しが厄介なため今回使用せず。  
プラティパス 2 つ用意した。夕飯と翌朝のお湯用でちょうどよかった。

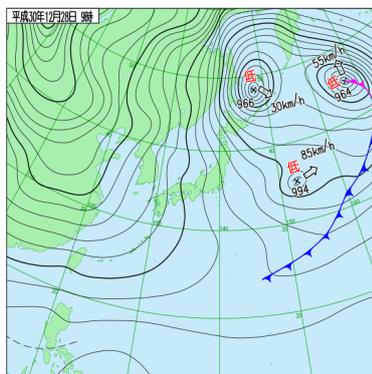
### 【会計 館谷】

合計 26,170 円

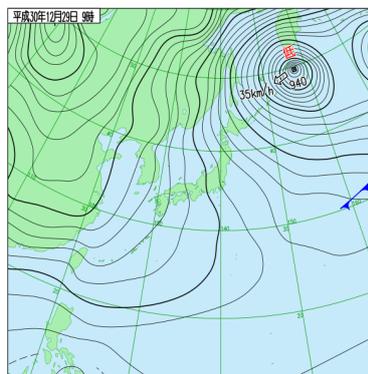
- ・高速代 7,440 円
- ・車両費 7,830 円 (往復 466km)
- ・テント場 3,000 円 (行者小屋)
- ・タクシー 4,100 円 (美濃戸口→富士見高原)
- ・食料 3,800 円

### 【気象 館谷】

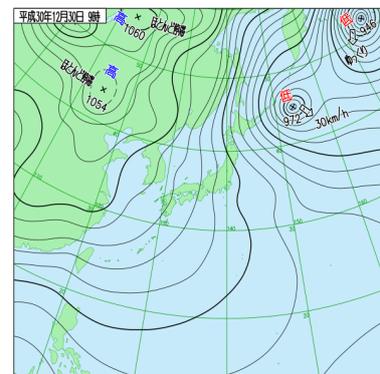
気象に関しては今回も大矢さんにサポートをしていただきました。山行中の状況判断に大いに役立ちました。ありがとうございました。



12/28 曇り



12/29 曇り時々雪



12/30 晴れ

**【リーダー所見】**

今回は厳しいコンディションの中で長時間歩き続ける必要があり、普段は許容している(もしくは気が付いていない)無駄や隙が顕在化した山行であったと感じました。三者三様に、何かを掴んだものと思います。出発前から中止を考える、中々厳しい気象条件での合宿でしたが、無事、完遂することができたのは、サポートして下さった皆さんや頼りになる同行メンバーのおかげです。ありがとうございました。(館谷)

**【メンバー感想】**

強風で余裕が少なかったが、課題を発見できた山行だった。行動食はこれまで小分け袋のお菓子が多かったが、寒くて休憩時間を多く取れない状況では不向きであり、見直したい。また、指が霜焼けのようになってしまい、ニベアなどの保湿ケアが重要であると感じた。最後に、ご一緒した館谷さん、鈴木さん、留守部員の方々、サポート頂いた皆様に感謝申し上げます。(福岡)

これまでで一番キツイ山行でした。

疲れに強風の追い打ちで、体がフラフラした場面もあり、体力のなさを実感しました。

同行した、館谷リーダー、福岡君にだいぶ助けてもらったなと感じた。

でも、雪山は、楽しいと思った。

魔法瓶に熱湯を入れて持ち歩いたが、自分は一般の魔法瓶であったためかキャップが氷ついて開けられず飲むことが出来なかった。山用のボトルを検討したい。(鈴木)